

植物  
防疫  
講座

## 病害編-49

## ニホンナシに発生する主要病害と防除対策

茨城県農業総合センター園芸研究所 おがわら 孝 司  
一般社団法人日本植物防疫協会 とみや 田 恭 範

## はじめに

令和3年度における国内でのニホンナシの生産状況は、結果樹面積が1万300ha、収穫量が18万4,700tで、千葉県、茨城県（以下、本県）、栃木県、長野県、福島県が主産県となっている（農林水産省大臣官房統計部、2022）。

ニホンナシは、果皮の色から黄褐色の赤ナシ系と、淡黄緑色の青ナシ系に分けられ、赤ナシ系の品種としては‘幸水’、‘豊水’、‘新高’、‘長十郎’等があり、青ナシ系の品種は‘二十世紀’、‘菊水’等がある。本県で現在栽培されている主要な品種は、赤ナシ系の‘幸水’、‘豊水’で、果実に袋かけを行わない無袋栽培が主流である。赤ナシ無袋栽培の果実には黒星病、輪紋病、赤星病等の病害が発生し問題となる。青ナシ系の果実病害も同様であるが、黒斑病は青ナシ系のみが発生する病害である。また、葉に発生し、落葉などにより果実品質や樹体生育に影響を与える炭疽病やうどんこ病、新しく伸長した枝・葉柄・幼果等が枯死する疫病、枝幹部が枯れ込む胴枯病や

枝枯病、根に発生し、樹体を衰弱させる白紋羽病等、多くの病害が発生する。ここでは、本県のナシ栽培で防除対象となっている主要な4病害について、その生態と防除対策について解説する。

I ナシ黒星病 (*Venturia nashicola*)

本病は、ニホンナシ生産における最重要病害であり、りん片、果そう基部、葉、新梢、果実等多くの部位に発生する（図-1）。幼果に感染すると黒いすす状の病斑を作り、果実の肥大に伴い病斑部がかさぶた状となり、裂果や奇形果の原因となる（図-1）。また、葉柄に発病すると早期落葉につながる。

本県では、病害虫全般の標準的な防除体系を示す赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例（以下、参考防除例）を作成しているが、全18回の防除のうち、黒星病を対象とした防除は14回となっている。また、防除時期は3月下旬の催芽～萌芽期から秋季まで長期にわたり、各種予防剤とステロール脱メチル化阻害剤（以下、DMI剤）を組合せた防除体系となっている。特に、DMI剤につ



図-1 ナシ黒星病の果そう基部病斑（左）と果実病斑からの裂果（右）

Control of Major Diseases on Japanese Pear. By Takashi OGAWARA and Yasunori TOMITA

（キーワード：ニホンナシ、病害、赤ナシ、防除）